

公民館月報

K O M I N K A N G E P P O



特集 家庭教育と子育て支援

4.5

- 2 トピックス 第29回全国公民館研究集会開催
- 3 視点 シルバー世代とユースホステル
- 3 ひろば 視点を変える
- 6 実践記録シリーズ 『過去・今・未来』沼垂もんの冬まつり
- 7 サークル交流 進化する合唱団(三条市) / 文化刺繍(阿賀町)
- 7 素顔拝見 渡辺 徹さん(佐渡市) / 安久 昭男さん(関川村)



第30回潟東おまつり広場・新潟市潟東地区公民館
 恒例の潟東おまつり広場は、今年も8月16日に開催
 表紙解説 2000人近くの参加者で大いに盛り上がりを見せた。



第29回全国公民館研究集会開催

『どうなる公民館』新しい役割を求めて

去る11月1日(水)～2日(木)の二日間にわたり、宮城県の仙台市国際センターを会場に、1,000余名の多数の参加を得て、第29回全国公民

館研究集会が開催された。

今回のテーマは、『どうなる公民館』新しい役割を求めて。大会初日は6の分科会に分かれて終日熱のこもった討議が展開された。分科会のテーマには、指定管理者制度や2007年団塊世代大量退職を見据えた地域づくりなども取り入れられ、厳しい行政環境の中、今後の公民館のあり方そのものを問う内容になっている。

本県からは湯沢町公民館より並木進館長が、第2分科会「家庭教育分野の『子育てプラン』環境づくりとネットワーク体制」について、第5分科会「地域連携分野で、はまなす『地域交流』学会より丸田秋男座長が、北新潟経済人会議より吉田孝志氏が地域連携分野の「NPO・企業、地域団体等の連携」について参加し、それぞれ具体的な事例を交えて発表を行った。

第二日目の全体会では、全



第4分科会「団塊の世代」



全体会 開会式

第29回全国公民館研究集会アピール文

いま公民館は全国各地で、大変厳しい状況に置かれています。公民館の統廃合、職員削減、指定管理者制度導入の検討等は、地域の教育力を低下させ、明るく活力ある地域社会の構築に、大きな支障を来すことが懸念されています。

一方、教育基本法の改正案では、「公共の精神」を涵養する重要性を前文で明記し、さらに「生涯学習の理念」「家庭教育」「幼児期の教育」「学校、家庭及び地域住民等の相互の連携協力」など、公民館本来の機能や役割に加えて、地域の社会教育の中核施設である公民館への新たな期待と重なる大切な事項が、条文化されています。

そこで、この現状のピンチを将来に向けて飛躍するためのチャンスとすべく、ここ仙台的地で一堂に会した私たちは、新しい生涯学習社会の形成や、明るく住みよい地域づくりをさらに進めるため、一人ひとりが公民館の振興・充実に、今後一層努力することを誓い合い、次の事項をアピールします。

記

1. 私たち公民館関係職員は、地域に貢献できる公民館活動を積極的に展開します。
 - (1) 地域の人々や関係諸団体との連携を密にし、人的ネットワークを構築し、地域のニーズを的確に受け止めた公民館活動を展開します。
 - (2) 自らの職責を強く自覚し、日々研鑽に努め、信頼される公民館職員になります。
1. 私たち都道府県公民館連合会関係者は、相互に高め合う幅広い公民館活動を積極的に展開します。
 - (1) 互いに連携協力し合い都道府県連行事を活性化し、それぞれの公民館活動を支え合えるよう力を合わせます。
 - (2) 都道府県内関係諸団体との提携を深め、公民館の機能や役割、必要性を幅広く各方面に訴えます。
1. 私たち全国公民館連合会は、未来を拓く全国の公民館のさらなる振興発展に努力します。
 - (1) これからの公民館のありかたを明確にし、優れた公民館活動を共有し合い全国の公民館の管理運営や諸活動が、さらに充実するよう努めます。
 - (2) 国の動向や社会教育関係の情報を適時に把握すると共に、公民館職員のための有益な資料の提供や全国的研修機会の充実を図ります。

以上

平成18年11月2日(木)

第29回全国公民館研究集会

国公民館連合会の松下会長の挨拶に続き、文部科学省、宮城県知事の祝辞、そして仙台市教育長の歓迎の言葉の後、

研究集会アピール(別掲)が満場一致で承認された。続いて、文部科学省生涯学習政策局社会教育課出口ポラントリーア活動推進専門官が文部科学省の政策説明を行った。最後の記念講演は、東北大学加齢医学研究所川島隆太郎教授を迎えて「脳を知り、脳を

育む」と題して行われた。専門研究者による脳の活性化、機能向上に向けた内容に、参加者は熱心に聞き入っていた。来年の第30回大会は10月11、12日の二日間、第40回開会式を兼ねて栃木県宇都宮市に於いて開催予定。

視点

シルバー世代とユースホステル



新潟県ユースホステル協会 運営委員 間瀬 正仁

この頃ユースホステルと云う言葉が忘れられている。私がユースホステル運動にかかわって五十年になる。一九六〇年代からのデスクカバージャンの旅行ブームでユースホステルも若い人達にもはやされた。パブル景気以後はすっかり忘れ去られた。

しかし、団塊世代、シルバー世代と云われる人達の多くは青春時代にユースホステルを利用しての旅行を経験したと思う。

私もシルバー世代の一人、健康と体力維持を目標にウォークを続けている。時々県外のウォーク大会に参加し

ユースホステルを利用している。

新潟県ユースホステル協会「ゆっくリズム」佐渡一周(三〇〇キロ)ウォークを実施し、この十月に第八回大会を以って終了した。これからもユースホステルを利用し、各地のウォーク大会に参加して行きたい。

なお、新潟県ユースホステル協会(TEL・FAX 〇二五―二二二―一七八九)は、新潟市下大川前通七―二二三〇、佐渡汽船観光株式会社内にあります。

H O T N E W S 掲 示 板

平成18年度下越地区公民館関係役員等研修会開催

研修会プログラム

- ・とき 平成18年9月29日(金)
- ・ところ 新潟市生涯学習センター 230名参加
- 1. 分科会 (9:30~14:30)
 - ※新潟市生涯学習センターから新潟グランドホテルへ移動(14:30~15:00)
- 2. 講演会 (15:00~16:30) (以下敬称略)
 - 演題 『新しい時代の社会教育』
 - 講師 文部科学省生涯学習政策局社会教育官 馬場祐次朗
- 3. 全体会 (16:30~17:15)
 - (1) 開会あいさつ 下越地区公民館連絡協議会 会長 三保恵美子
 - (2) 来賓祝辞 下越教育事務所長 浮須興志夫
 - (3) 歓迎のこたば 新潟市生涯学習部長 佐藤信幸
 - (4) 来賓紹介
 - (5) 分科会報告並びに講評
 - ①第1分科会 宮内勝也 (五泉市公民館主事)
 - ②第2分科会 濱野 浩 (佐渡市教育委員会相川事務所補佐)
 - ③第3分科会 遠藤 勝 (阿賀野市笹神公民館副館長)
 - ④第4分科会 倉松淳志 (村上市生涯学習課公民館係長)
 - ⑤第5分科会 高橋正範 (新潟市豊栄地区公民館主査)
- 講評 下越教育事務所社会教育課長 佐藤強平
- (6) 閉会式
 - ①次期開催地区代表あいさつ
 - 五泉市公民館長 熊倉文男
 - 阿賀町公民館長 井上 啓
 - ②閉会あいさつ
 - 下越地区公民館連絡協議会副会長 土田真照



ひろば

視点を变える

山北町社会教育委員 中島 秀雄

戦後61年を経たこの夏、未曾有の激戦地となった硫黄島に関する本を2冊読むことができた。

1冊は日米の戦力の差の中で、どのように戦ったのか。もう1冊は日本軍の総指揮官をつとめた栗原中将の緻密な計算と効果を発揮するための苦悩、そして兵士を気づかい家族を気づかう姿は、幼少時の育ち方、成人後の考え方の大切さがよく表われている。

硫黄島の攻守において、戦争というものの残酷さを、知ること大切であるが、視点を变えて一総指揮官としてどのような行動をとっ

たのかを知ることによって、改めて事に処するときの適切な指示・指導をどのように行うか、そのむずかしさを知ることができた。

ややもすると物事を判断するとき、直感で行うことが多いものである。心して、いち方向からだけでなく、他方向からも見て総合的な判断をできるようにこれからも心がけたいものである。



て支援

第29回全国公民館研究集会 第2分科会「家庭教育」

りやすく積極的に参加する人は一部です。通常の開放事業には参加するが、学習会の形式になると参加率が低くなることから、学習するというよりは、交流する場があればよいという感じが見受けられます。

心豊かな子育てをするにあたり、まずは「大人の姿勢が大切」ということで親の意識改革をしていくことと、育児に関する情報が氾濫する中で、今、何を知りたいのかニーズに合わせ、正しい情報を収集・整理し支援していくことが課題であり

ます。

また現在、子育てサークルが1つあり、主に公民館を利用し活動しています。今後は、各事業の参加者を中心に子育て支援のリーダーとなるべき人材を育成し、次世代につなげていくということが課題であります。さらにはサークルが増え、それぞれが自主的に活動する中で、親自身も成長し心豊かな子育てを実践していければ良いのではないかと考えております。

《平成17年度家庭教育事業実施計画・実績》

No.	事業名	内 容	期 日	参加人数
1	子どもひろば	親子同士の交流・情報交換 * 0～3歳児親子対象 (特別メニュー*)	毎週 (火)	毎回5～6組
2	赤ちゃんひろば	親子同士の交流・情報交換 * 0～1歳半親子対象 (特別メニュー*)	毎週 (金)	毎回10～11組
3	絵本のひろば	読書グループによる絵本の読み聞かせや親への読み聞かせ指導	毎週 (水)	毎回2～3組
4	子育てカレンダー	湯沢の子育て支援の情報提供 事業のお知らせ・おやつレシピ紹介	毎月発行	約180世帯配布
5	ブックスタート	家庭での絵本の読み聞かせの薦めと絵本の訪問配布 * 5～6ヶ月児対象	随 時	年間約80名配布

* 《子どもひろば・赤ちゃんひろば「特別メニュー」(学習会形式) プログラム・実績》 平成17年度

No.	区 分	テーマ	内 容	期 日	参加人数
6	子ひろ	絵本	絵本を通して、親子の絆を深める	5月31日 (火)	親10・子7 計17名
7	子ひろ	音楽	音楽コンサート親子で音楽を楽しむ (保育園児含)	6月29日 (水)	親51・子108 計159名
8	子ひろ	育児講演	豊かな心を育てるための子育て論	7月12日 (火)	親のみ7名
9	赤ひろ	食事	食の大切さを学ぶ・離乳食レシピの紹介	9月16日 (金)	親12・子12 計24名
10	子ひろ	健康管理	日常生活での不安や疑問を解決する	11月11日 (金)	親9・子9 計18名
11	赤ひろ	救急処置	乳児事故の防止と応急手当を学ぶ	2月17日 (金)	親8・子8 計16名
12	赤ひろ	リズム遊び	親子でリズムに乗りながら、楽しく体を動かす	年3回 (金)	平均10組

特集

家庭教育と子育て



新潟県南魚沼郡湯沢町
湯沢町教育委員会（公民館）
社会教育課長（館長）
並木 進

I はじめに

1 地域の概要

湯沢町は、新潟県最南端に位置する町です。その周囲を日本百名山に数えられている谷川岳や苗場山など1,500～2,000m級の山々に囲まれた山岳地帯で、町内には13箇所のスキー場があり、全国でも有数のスキーリゾート地として有名です。温泉にも恵まれ、豊富な緑と湖・河川が四季折々の表情をかもし出す豊かな自然に恵まれています。

また、湯沢町はノーベル賞作家川端康成の小説「雪国」の舞台となったことでも知られ、日本童画の父といわれる川上四郎の永住の地でもあります。このように湯沢町は、自然環境や人文資源が豊富な町です。

2 実態

子育て中の多くの親が交流の場を求めているようです。町内に親子で気軽に行ける場所が少ないので、公民館で行っている開放事業等はあるがたいようです。最近、親の「話を聞く」姿勢や態度がよくなり、家庭教育事業において親指導が難しく、学習会形式の運営が少し困難という状況です。

3 活動のねらい

核家族化する社会環境の中で、親が一人で悩まず多くの仲間と子育てについて、話し合いや学習することができる機会や交流の場・子育てに関する情報を提供し、子育て支援を行います。各事業の参加者を中心に子育て支援のリーダーを育成

し、次世代につなげていきます。また、子育てサークルの活動を推進・サポートし、サークル数を増やします。

II 活動の内容

湯沢町では「すべての子どもが心身ともに健全で生まれ育つように」をモットーに、子育て支援センター・保健センター・公民館が連携して事業を行っています。月に1回各担当者による「子育て支援連絡会議」を開催し、互いに対象家庭を網羅しているか、拾い落としがないか等きめ細かく確認し、共通理解に努めています。その中で公民館では、0～3歳の乳幼児とその親を対象とし、月に1回「子育てカレンダー」を発行しています。

III 評価と成果

参加親子は核家族で、第1子を持つ親子が多く、初めての育児で同じ境遇の仲間を作りたい、交流することで育児不安を相談・解消したい…という思いが大きいと思われます。当事業を通して、子育て中の親子の横のつながりができ、たくさんの友達ができたようです。子育てをする仲間が気軽に誰でも集まれる場の必要性はもちろん、月齢が近い親子同士が集まれるというのもキーワードになっているように感じられます。

各種事業により、積極的に外に出ようとする親子が増え、サークルへ入会する親子が増えています。このことから一人で悩むことなく相談できる仲間がいる、そして仲間と楽しんで子育てする輪が広がっているようです。

IV 今後の課題

各事業を通して見えてくることは、行政の提供するプログラムへの参加は、親にとって受身にな

実践記録

104

シリーズ

第57回新潟県公民館大会
事例報告3から

『過去・今・未来』沼垂もんの冬まつり

新潟市東地区公民館 運営審議会委員 松原 明子



1 はじめに (省略)

2 公民館活動から

公民館を利用しておりますと、いろいろと地域のことを含め、様々な情報が目に耳に入ってきます。

そんな中で、平成15年に公民館で「地域の歴史を考える」として、ぬったり地域業が開催されるとのこと、私にとって、ようやく沼垂を様々な学ぶ機会に恵まれ参加しました。

ぬったり地域業で学びたいこと、調べたいこと、したいこと、他ネットワーク作り、学校と地域、建物と景観を残す…等のテーマのもと、まず今の沼垂を知るため、最初は、まち歩きを行いました。

沼垂は、川欠けによる度重なる町の移転、300年の歴史のある町、現在の道路がほとんど川筋であること、生活すべてが水路で往来していたこと、舟運のおかげで昔の沼垂の町が栄えていたことなど、初めて知ることはかりでした。その上に沼垂の町、堀、小路、橋、沼垂出身の「小唄勝太郎」の話と沼垂の歴史について様々な学ぶことができました。

また、沼垂ゆかりの画人達では、「長井雲坪」、「金子孝信」、「須田竜亭」の生涯と作品についての講座や、新潟と沼垂のかかわりの「よもやま話」等々学んできました。

歴史だけではなく、今の沼垂のかかわりは、ということが話し合われ、平成17年度はぬったり地域業をもう一度考えてみようということになり、ワークショップ方式で基本理念を設定し、その現状は次のとおりでした。

①楽しいまちを作ろう！「街、店、人」

街がさびしい。お店の活気がない。 買いたい物の店がない。

沼垂もんの欠点あり。

②居場所づくりと人材育成、人こそ宝物！

各年代の居場所の不足。 居場所が周知されていない。 必要な人材が見つけられない。

③住みやすい環境を作ろう！

港が活用されていない。 公園・水辺が少ない。 道路の活用ができていない。 古い町が欠点。

④温故知新の沼垂作り～古い物は懐かしい物！

沼垂の宝物を保存し記録する。 そして、この4点の基本理念に基づき、方針と方策についてワークショップを行いました。

①楽しいまちを作ろう！「街、店、人」

○繁盛店を創造する

- ・発酵食品のコンテストを開く
- ・沼垂名物を創り出す
- ・店の手伝いをしてくれる人を募集する
- ・沼垂のカレンダーを作る

○自分のまちに関心を持ってもらう

- ・昔の話を聞く
- ・沼垂のまちめぐりをする
- ・関心事を調査する
- ・まちの楽しみを洗い出す

②居場所づくりと人材育成「人こそ宝物！」

地域の人と人との交流を図る

- ・既設の公民館の「青少年の居場所」を発展させる。大人にも開放・参加する。
- ・大人も子どもも集まりやすく、興味ある事業を開催
- ・公民館のサークルの協力を得ながら子どもと一緒に作業する。

③住みやすい環境を作ろう！

港と道路の活用

- ・業の本バイパスの都市計画の確立
- ・港に関する意識調査(アンケート)
- ・港と道路の活用サポーターづくり

④温故知新の沼垂作り～古い物は懐かしい物！

写真による沼垂の再発見

- ・昭和30年代以前の写真の発掘(個人、企業、新聞記事他)
- ・発掘した写真の整理(年代順、地区別、人物別)
- ・写真のデータベース化(発表、保存)
- ・写真展の開催
- ・古い写真から新しいまちの発見

以上4つの課題について話し合い、少しずつ具体的なものになっていき、次に進むことになりました。そして、住民が何を望んでいるのか？いろいろな活動をどうリンクしていくのか？等の2点をポイントに考えあわせ、イベントを開催することになりました。

3 沼垂もんの冬まつり

○開催に当たって

ぬったり地域業での学びのプロセスからできたひとつの疑問が、「沼垂の人たちが何を考え、自分たちのまちをどうしたいのか」という基本的命題でした。

そのため、沼垂地域全体を巻き込んだイベントという手段を用い、最終的には、「沼垂の未来づくり」に向かって①沼垂の人が沼垂を知り、②沼垂の人が沼垂を愛し、③沼垂の人が沼垂を誇りに思うを、基盤づくりのファーストステップとして位置づけ、沼垂内部に働きかけることを中心に考え、既存の活動団体や自治会等あらゆる組織を巻き込んで行うこととしました。

沼垂の人たちは、祭り大好きで、これまでに以上の人が集まり何回にもわたり話し合われ、試行錯誤を繰り返しました。

徐々に具体化し「沼垂の未来をつくる」ためのイベント「ぬったり冬の陣」とし、新潟市の食の陣当日座に合わせたら、ぬったり話し合われましたがなかなか日程が決まらず、沼垂の人達のイベントなのだから、いかに沼垂の人々がたくさん参加してくれるかを考えた日程をということで、2月26日の日曜日に決定、名称を「沼垂もんの冬まつり」としました。

また、住民の意識調査を実施し、報告書を作成するということが決まりました。私が第一に思ったことは、この意識調査(アンケート)の大切さでした。沼垂の住民の本音はどうかというところが、少しでもわかるのではないかと思っています。

○当日の様子から

いよいよ当日がやってきました。大雨の降る寒く冷たい日でした。でもスタッフの皆さんは、朝早くから準備をし、屋内屋外とも万全を期し、沼垂の人々を待ちました。

どうでしょう。沼垂は人・人・人で大変なことになりました。おばあちゃん、おばさんはお料理教室に、おじいさん、おじいさん、お父さん、赤ちゃん、子どもたちは子供村にと、午後の芸能村も大盛況、屋外の屋台村は会場が2ヶ所に別れていたので、やはり少しとまどってしまいました。

今昔村・散歩村は会場が離れていて雨の中の移動は大変でしたが、内容はおもしろく聞かせていただきました。

第1回日の冬イベントとしての「沼垂もんの冬まつり」に参加させていただいて、少し気分が明るくなりました。沼垂にもこんなたくさんの子ども達がいる。すばらしいことだと思います。大人になっても沼垂に住み続けたい、と思うようなまちにしていくことが私達大人の役目かなと思います。

○沼垂もんの冬まつり反省会から

良かった点は、「継続は力なり、今後も事業を続けてほしい。」ことや、「女性スタッフのお陰で子どもたちが大いに喜んでくれた。」「盛況に終わり、良かった。」という意見がありました。その反面、「イベント会場の分散化は、良くない。」「情報が徹底していない。」「PR不足。」「駐車禁止区域に車を止める客がいて警察から注意を受けた。」「ワークショップに参加する人が少ない。」等々、反省事項が引出されました。

○アンケート結果から

(沼垂もんの冬まつり参加者の意見 195人)

50～70歳代の女性の意見が多く、沼垂にお住まいの方の意見は、人情に厚く、風情があり、歴史を身近に感じることができ、コミュニティの絆の強い街で、いろいろな公共施設が身近にあり、住みやすいと考えている反面、商店街の空き店舗が増え、買い物ができなくなっていることや、道路が狭いし、駐車場や公園や子どもの遊び場が少なく住みにくい街だと感じていることが分りました。

(万代、明鏡高校生の意見 376人)

10代の若者で沼垂に住んでいない方の意見は、沼垂の街に関心が高く、すみにくい街だと感じている生徒が約60%、住みにくいと感じていることについては、沼垂の街を知らないことから、買い物ができないと感じている生徒が約40%の意見がありました。その中には、高校の近くにコンビニエンスストアが無いこと、洒落た店や若者の購買意欲が持てる店が無いとの意見も含まれています。しかしながら、40%の生徒が沼垂に関心があるとの回答があり、沼垂の街を知ってもらうことが必要ではないかと感じられます。

4 終わりに (省略)

進化する合唱団

おたまじゃくしの会

子どもの卒園と同時に、「いつかはかえるの合唱に」と立ち上げたママさんコーラスの会です。練習は月二回。毎年三糸市合唱祭で歌うのが唯一の舞台です。

発足時小学一年生だった子どもが、今や中三の生意気盛り。お母さん達は働き盛りで練習時間のやり繰りが難題ですが、同級会の乗りで細々続けてきました。

合唱は楽しくストレス発散にもなります。時にはランチで子育ての悩みを話したり、



クリスマスパーティー、新年会とお楽しみのお会には努力を惜しまなかったことが継続の秘訣かもしれません。

八〇歳を過ぎて入れ歯になっても、元気に歌い続けるのが新たな夢です。

三糸市
おたまじゃくしの会
代表 兼古和枝 記



文化刺繍

文化刺繍愛好会

ある日突然、刺繍を覚えてくれといわれて何十年もしていないのでお断りをしたのですが、若い時覚えたのは忘れないからといわれて、その一言で皆さんとやる気になった



次第です。ご婦人方七名(年代六十代前半)と、男性一名の計八名で始めましたのが五年前です。

月日の経つのは早いもので丸五年になりました。

はじめは色数の少ないものから入っていき、だんだんと手の込んだ品物に進めております。指導してきた私ですが、今では指導者がいらないうくらい上達してきました。

自分のことを少し書きますが、自分は四十代にこの刺繍を覚えまして、十四、五年続けて五十代半ばで休んでいました。

今は楽しく頑張っています！

阿賀町文化刺繍愛好会
大江乙平 記

歴史館では、企画展の立案・展示、各種講座の開催。公民館では月1回の健康登山、健康ウォーク、名水めぐり etc...土・日曜日返上の活躍に頭が下がります。

彼の趣味は登山・ボーリング・バトミントンで、特にバトミントンは毎日当職員(美女)3人と昼休みを利用して、練習に励んでいます。また、ボーリングは密かに夜1人?で10ゲーム以上ボール

関川村教育委員会 生涯学習課
主任・学芸員 安久昭男さん



を転がしているとか。登山は歴史館・公民館の事業がない日は山にこもり、明日の社会教育について考えているとのこと。さて、早稲田大学文学部卒・小説家の彼は、持ち前の話術により先輩・同僚との会話で職場の雰囲気づくりに取り組んで貰っています。本人コメント「一緒に人生の山を登りましょう」

(関川村生涯学習課長・公民館長 田村健一 記)

佐渡市公民館は、市内10地区の公民館の中央公民館で、職員は公民館長を含め12名です。笑いとお菓子の絶えない明るい職場です。

今年公民館に配属された渡辺徹さんは、「トオルちゃん」の愛称でみんなに親しまれています。担当する高齢者学級のお年寄りや、公民館に遊びに来る子どもたちの人気者です。最近では、公民館講座のヨガ教室に通う若くてきれいなお姉さま方

佐渡市公民館

主事 渡辺 徹さん



からも注目されるよう、日々外見と内面を磨いています。市役所のバスケットボール部に所属し、試合中は、ベンチを温める係ですが、宴会になると実力を発揮し、「夜のスタメン」と呼ばれています。これからも地域に根ざした親しみのある公民館づくりに励み、ついでに花嫁もGetしてほしいと思います。

(佐渡市公民館 主任 伊藤智子 記)

素顔 拝見

第57回新潟県公民館大会記録集の基調講演並びにシンポジウムの内容校正をお願いした折、講師の手塚英男先生から惠贈された冊子です。

創刊は平成二年二月十日、この始まりから今日に至るまでの経緯を、発行人である手塚先生が書き述べておられます。

明治三十年と三十八年伊那谷山村生まれの二人の姉妹が、八十歳を過ぎた頃から、自分の子どもの頃の思い出や製紙女工として働いた体験を綴り始めら



れ、先生が「ねんころ、ねむの木・みやこ、みとしの昔語り」として銀河書房から刊行されたこと、そしてそのまえがきで、同じような体験を書いて送ってくださいと呼びかけたのが、こ

の創刊号だったそうです。

二号から、松本市南部公民館の「ワープロボランティア講座」の参加者に引き継がれ、三号からは、参加者が結成した「ワープロボランティアの会」が刊行、十六年も続けられたつづり方文集だそう、発行部数は一千部。今回をもって休刊となるそうです。

連絡先 〒390・0812
松本市東2丁目9番24号
(発行人) 手塚英男
電話 0263・35・1310

惠贈資料紹介

信州年寄り通信 第30号

なんなんひろば
ワープロボランティアの会

Net work

ネットワーク

「平成18年度中越地区公民館職員研修会」

期日：平成18年10月5日(木)
会場：長岡市中之島文化センター 118名参加

開会式(会場：文化ホール)
開会挨拶 中越地区公民館連絡協議会会長 大関 重雄
祝辞 中越教育事務所社会教育課課長 松井周之輔様
新潟県公民館連合会会長 三保恵美子様
歓迎の挨拶 長岡市教育委員会教育長 笠輪 春彦

講演(会場：文化ホール)
演題 「時代が求める公民館の役割」
講師 新潟市音楽文化会館館長 今井 昭友様

昼食(会場：各分科会会場及びロビー)

分科会
第1分科会(会場：多目的ホールBCD)
テーマ：「新しい時代が求める公民館活動」
地域社会との連携～地域づくりに公民館はどう関わるか～
第2分科会(会場：文化ホールステージ)
テーマ：「市町村合併後の公民館活動」
中央公民館と地区公民館の新しい関係
第3分科会(会場：視聴覚室)
テーマ：「公民館事業の活性化」
公民館事業のマナー化防止策を考える
第4分科会(会場：多目的ホールA)
テーマ：「公民館の管理運営」
指定管理者制度の導入、公民館事業の有料化(受益者負担金)

全体会(会場：文化ホール)
各分科会の協議内容発表
質疑
閉会式(会場：文化ホール)
閉会挨拶
長岡市中之島公民館館長 高森精二



event information

2006年
プラネタリウム秋番組 No.96
新潟県立自然科学館開館25周年記念番組
宇宙へ飛び出せ！
～石が栄えの宇宙飛行士～

放映期間 2006年9月9日(土)～11月26日(日)
新潟県立自然科学館
NIGATA SCIENCE MUSEUM

平成18年11月の催物ご案内

不思議な生物? 恐竜調べ
恐竜のクイズや恐竜の歯やツメなどの観察、比較をします。
日時 11月19日(日) 13:30～14:30
会場 科学室 参加費 入館料のほか200円
その他 電話予約による申込み30名(先着)

からくりの世界
海運びんお・投返り人形などのからくり人形の発表をします。
日時 11月26日(日) 13:00～15:00
会場 科学室 参加費 入館料のみ
定員 各回先着40名

大好評放映中!! 新潟県立自然科学館開館25周年記念番組
宇宙へ飛び出せ!
～石が栄えの宇宙飛行士～

あらすじ
「ここは、ISS国際宇宙ステーション」プラネタリウムが始まる。みなさんは地球上400kmの宇宙空間へ飛び立ちます。
ISS国際宇宙ステーションは、1998年から建設が始まり、現在も建設が続けられています。2007年からは、日本の実験棟「きぼう」の建設ミッションも予定されています。
誰もが「飛行」してみたいと思う宇宙。みなさんは、宇宙飛行士になることは、思い描いていませんか。そんなことはありません。目標は、宇宙へ行くという夢を実現した日本人宇宙飛行士の活躍をご紹介します。
番組の最後には、西川宇宙飛行士から新潟県立自然科学館へお越しのみなさんへメッセージがあります。この番組をご覧になって、宇宙へ行きたいと思われた方は、ぜひ将来、夢をかなえてください。
※11月2日～11月10日まで、プラネタリウム乗入れのための予約ははじまっています。

あ と が き

吉報が入って参りました。

平成18年度文部科学大臣表彰に、新潟市北地区公民館が受賞の栄に浴することとなりました。

10月26日(木) 東海大学 校友館での表彰式後、天皇、皇后両陛下拝謁及び庭内拝観がなされました。

(鈴木 記)

電話 (025) 283-3331 FAX (025) 283-3336